

世界をつかめ!



13

一日米アジアのハイテクVB

日本アジア投資グローバルテクノロジー 竹下 浩二

g based on Innovative and Origininal Technologies) を開発するベンチャー企業だ。

LSI設計技術

だが、微細化が進むにつれて、開発に要する期間、コストが増大するという課題が生じている。

普及に期待

「Spinor」を開発した。最適構成を数学的に決定することで、回路の規模を縮小しながら、高性能化、低消費電力化を可能にする独自の設計技術

微細化での課題

マセマテック(東京都中央区、渡雅男社長、03・3243・0805)は、LSI(大規模集積回路)の回路規模を縮小設計する独自の技術「Spinor(スピノール、Shrinkin g Processin

LSIとは数多くのトランジスタ、コンデンサー、抵抗などの素子を一つの半導体チップに組み込んだ集積回路を意味する。LSIはあらゆる電子機器に搭載されており、高性能化、低消費電

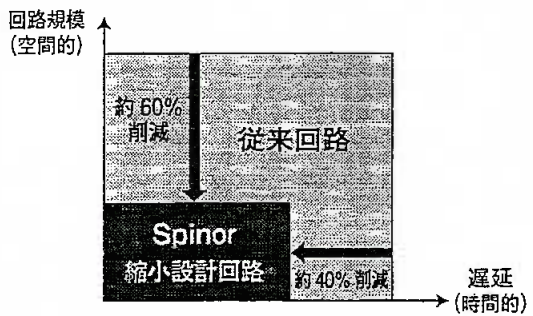
数学的に決定

こうした課題に目を着けたマセマテックは、従来のように回路の集積化を図るのではなく、トランジスタの時間的(遅延)、空間的(面積)な

回路規模縮小で省電力化

に同社の開発した回路が採用されている。これは次世代の無線通信や画像処理向けの標準規格をターゲットに研究、開発を進めることで事業拡大を図ろうとしている。市場では、今後も有益

無線通信回路ブロックの縮小設計実績例



なアプローチとして、回路の集積化は半導体メーカーを中心に、研究開発が継続され、発展の一途をたどると思われる。一方、Spinorはこうした集積化とは異なる角度からの課題解決に向けた有益なアプローチとして(月曜日に掲載)

て考えられる。それぞれのアプローチだけでも効果は見込めるものの、これらを両立させることで、革新的なLSI開発の道が開けるものと思われる。既に両方のアプローチを取り始めて